

## 令和5年度ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

2024年3月26日

団体所在地 広島市東区牛田新町4丁目1-1  
団体の名称 学校法人 比治山学園  
職・氏名 理事長 木谷 健  
(施設名 比治山大学短期大学部附属幼稚園)

### 1 活動報告

【4月～6月】(春季)

(活動内容)

- ・第一回ビオトープ観察会を実施。講師を招いて身近な生き物の観察をしたり、マダニ、スズメバチなど危険な生き物について教えてもらったりした。
- ・ビオトープにメダカやアカハライモリなどを放流した。
- ・園内の畑を整備しサツマイモの苗植え、朝顔の種まきをした。

【10月～12月】(秋季)

(活動内容)

- ・サツマイモ、ジャガイモの収穫をした。サツマイモはふかしいものに調理する。ジャガイモはスライス後、揚げてポテトフライに調理した。
- ・プランターにダイコンの種植えをし、観察したり世話をしたりした。
- ・チューリップやヒヤシンスなど植物の球根植えを行った。

【7月～9月】(夏季)

(活動内容)

- ・第二回ビオトープ観察会を実施。講師を招いて、バッタ、キリギリスなどの生き物について教えてもらったり、身近な植物を観察したりした。
- ・アサギマダラの飛来を願い、園庭にフジバカマを植えて育てた。
- ・プランターにジャガイモの種植えをした。

【1月～3月】(冬季)

(活動内容)

- ・ダイコンの収穫をした。収穫したダイコンは形や大きさを比べたり、ダイコンをよく観察して絵で表現したりした。
- ・収穫したダイコンは、煮込み、ダイコンの葉も炒めて調理し試食した。
- ・畑にジャガイモの種と、タマネギの苗を植えた。

【4月～6月】

(写真)



・第一回ビオトープ観察会（6月8日）

ヤゴ、ミミズ、メダカ、イモリなどいろいろな生き物に直接触れたり、観察したりした。間近で見たり触れたりすることで、さらに愛着が湧き、生き物に積極的にかかわろうとする姿が見られた。また、「スズメバチとミツバチは、どちらが強いですか？」など、子どもたちの生き物についての疑問に対しても講師（専門分野の先生方）が、わかりやすく解答した。子どもたちの質問の多さから、生き物に対する興味関心の高さを改めて感じる事ができた。その後、ビオトープにメダカやヤゴ、アカハライモリなどを放流した。「元気に泳いでね」など優しく声をかけて放流する子、放流した生き物の姿をずっと目で追いつける子などの姿があった。

【7月～9月】

(写真)



・第二回ビオトープ観察会（9月8日）

バッタ、キリギリスの違いや見分け方などを教えてもらったり、実物を観察したりした。また、アサギマダラという模様が鮮やかな大型の蝶について紹介して下さり、長距離を移動する飛来蝶であることや、その蝶がフジバカマという植物を好んで飛来してくるということを教えてもらった。子どもたちは、その綺麗な模様の蝶に、とても興味を持った。園庭にもアサギマダラが飛来してくるようにと願いを込めて、フジバカマを植えた。11月に遠足で広島市植物公園に行き、フジバカマの花が咲いている場所で、実物のアサギマダラを見ることができた。実物のアサギマダラの美しさに子どもたちも教師も感動した。アサギマダラが園庭に飛来してくるよう、今後は、もっと園庭にフジバカマを植えて、育てていきたい。

## 【10月～12月】

(写真)



### ・サツマイモの収穫

サツマイモが沢山収穫できるように、畑の土壌作りを地域の方に手伝ってもらったり、苗うえのコツを教えたもたったりして、秋の収穫を楽しみにしていた。しかし、予想よりも収穫できず、「どうしてあんまりおいもできてなかったかね?」「土の中で何かに食べられたかね?」など、疑問に思ったり、自分なりに考えたりする姿があった。次年度にどのような畑にしたら、サツマイモが沢山育つのかを、子どもたちと共に考えるよい機会となった。収穫したサツマイモは、形比べや重さ比べをしたり、よく観察して絵で表現したりした。沢山収穫することはできなかったが、その経験から、いつも普通に食卓に並んでいる野菜が、簡単に育っているのではなく、大変な思いをしながら栽培されていることを知り、農家の方に感謝の気持ちを持つことができた。

## 【1月～3月】

(写真)



### ・ダイコンの栽培と収穫

9月にプランターでダイコンの種まきをしたが栽培途中で、葉がなくなってしまった。「水あげしてたのに、なんでなの?」「何かの虫が食べたのかな?」と子どもたちは疑問を感じた。教師もなぜなのかわからなかったため、子どもたちとともに家庭栽培の本やタブレットなどを用いて調べた。調べた結果「ヨトウムシ」に食べられていたということがわかり、もう一度種まきからやり直し、次は「ヨトウガ」除けの網をかけた。害虫対策をしたことで、ダイコンは順調に育ち、3月に収穫した。収穫したダイコンは煮て、葉はシラスと一緒に炒めて食べた。自分たちで育てた野菜は格別に美味しく感じたようで、ダイコンが苦手な子まで「美味しい」と言って食べていた。収穫の嬉しさだけでなく、害虫対策など野菜を栽培することの大変さも感じることもできた。

## 2 その他（自然体験活動の実施における今年度のプロセス）※記入必須

- ・ 職員の資質向上について

◎広島県私立幼稚園教育研修大会に参加し、広島市森林公園昆虫館の職員の方による「昆虫を通じた子どもとの対話」という講演を聞く。子どもとの会話を通して、教師自身の新たな発見や、本物の昆虫に接する楽しさを感じた。（8月）

◎ビオトープ観察会（6月8日・9月8日）において、講師の生き物や植物の話に傾聴し、知識を深めるとともに、保育の中で活かしていく。

- ・ 地域との関わりについて

◎地域の方や、現業員さんに、園内の畑の土壌整備の手伝いや、野菜の育て方の助言をいただく。（5月～3月）

- ・ 保護者との関わりについて

◎野菜の栽培について、詳しい保護者の方にアドバイスしていただく。

◎直接的な関わりではないが、サツマイモ、ジャガイモ、タマネギ、ダイコンなどの栽培の様子をブログで発信することで、家庭でも園での栽培物の話題が上がり、園と同じように、プランターなどで野菜を育てる家庭が増えた。また、収穫したものをポテトフライや梅ジュースにする様子をブログで発信すると、子どもの要求や話題から、家庭でも真似して調理されることがあった。

- ・ その他

\*より詳しく活動をアピールしたい施設は、ホームページやSNSのURLをご記入ください。

URL	<a href="https://www.hijiyama-u-youchien.jp/">https://www.hijiyama-u-youchien.jp/</a>
-----	---